

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 34 号

目 次

論説

道徳と動機

— マイケル・スロートの行為者基底的徳倫理学 — 相澤 康隆 (1 ~ 10)

アパルトヘイトの文学 (2)

— Dennis Brutus、詩と exile の悲哀 — 赤岩 隆 (11 ~ 25)

三重県における外国出身児童生徒の学習支援に関する地域アクターの検討 江成 幸 (27 ~ 34)

モニュメントからアートへ

— トーテム・ポールとイヌクシュクの例から — 立川 陽仁・森 彩也香 (35 ~ 48)

アートの公共性

— 芸術と社会を媒介するアートマネジメント — 田中 綾乃 (49 ~ 57)

近代日本における実業エリートの可視化過程と行動様式 永谷 健 (59 ~ 70)

日本語を母語とする中国語初学者における簡体字誤記の傾向 花尻奈緒子 (71 ~ 82)

協働学習の気づきから生まれたシラバス

— 現代仮名遣いの分析と考察から — 早野 香代 (83 ~ 95)

制度変動の過程 (1) 村上 直樹 (97 ~ 108)

黄庭堅の文に記された閑居について 湯浅 陽子 (一 ~ 三)

研究ノート

W. G. ゼーバルトと写真

— 『アウステルリッツ』読解のための覚書 — 大河内朋子 (109 ~ 114)

旧トレド管区イエズス会文書館および旧パストラーナ文書館の

日本関係文書のカタログ番号について 川口 敦子 (115 ~ 129)

三重大学人文学部

2017